2011.9.26　文責　根岸孝行

日本技術士会　原子力・放射線部会
日本原子力学会　原子力研究・教育小委員会　共催

「第３回技術士の集い」概要報告

○　日時　　；　平成 23 年 9 月 21 日（水）12:00～13:00
○　場所　　；　北九州国際会議場　Ｄ会場
（日本原子力学会　2011 年秋の大会）
○　参加者　；　計２１名
○　配付資料；
①「東京電力福島第一原子力発電所事故を重く受け止め、これに立ち向かう原子力･放射線部門の技術士」（2011.7.3 日本技術士会　原子力・放射線部会）
○　内容

１．技術士の集い開催にあたって
（工藤和彦　原子力研究・教育小委員会委員長、九州大学教授）

工藤先生より、技術士の集いの開催にあたって、技術士試験や技術士活用に関する最近の動向の紹介があった。主な内容は以下のとおり。

①　技術士一次試験の受験枠の見直しが行われる予定である。
②　組織に属する技術士が震災復興活動に従事しやすい環境を整えるため、学会から賛助会員（原子力関係組織）に対し協力・支援を要請してはどうかとの案がある。具体的には、先ずは学会長宛に、原子力研究・教育小委員会委員長、技術士会原子力・放射線部会長の連名にて要望書を提出する計画である。

２．部会長挨拶　（桑江良明　部会長）

昨年度（2010 年秋の大会）に続き、「第３回技術士の集い」を開催した。まず、初めに、今年６月に林前部会長の後任として新部会長に就任した旨の挨拶があった。

続いて、福島第一原子力発電所事故を重く受け止めた上で、半年を経た今、原子力･放射線部門の技術士として、「何をし何ができなかったか？」･「これから何をするべきか？」について考えるべきとの問いかけがあり、今後もより一層､技術士としての姿勢の大切さについて考え行動すべきとの考えが示された。

３．活動報告

（１）福島対応ＷＧの活動報告　（桑江良明　部会長）

現在、原子力・放射線部会で行なっている活動の紹介があった。主な内容は以下のとおり。

①　福島一時帰宅支援プロジェクトへの協力

9 月 9 日までにリピータを含む部会員延べ 20 名が参加したとの報告があった。今後

も帰宅支援プロジェクトに、積極的に協力して行く予定である。

② 福島コールセンター支援

部会員から２名が参加しているとの報告があった。

③ 福島事故解説チームの発足

福島事故解説チームを発足させ、原子力・放射線部会として一般市民を含めた多くの方を対象にした説明資料の作成を行う計画であるとの報告があった。

④ 「富岡町災害復興ビジョン策定委員会」への参画

町全域が避難対象となっている福島県富岡町の復興ビジョン作成委員会に、原子力・放射線部会からオブザーバーとして参画しているとの報告があった。

⑤ 社会人向け公開講座「知の市場」への出講準備

化学工業会より、社会人向け公開講座「知の市場」の「原子力、放射線の基礎知識」に関して出講依頼があり、対応しているとの報告があった。

⑥ 墨田区防災訓練への参加「測定実演付き放射線説明」（中止）

墨田区防災訓練への参加「測定実演付き放射線説明」に関しては、中止となってしまったが準備の過程で得られた知見は大きく、機材の準備等、今後の活動に役立つものとなったとの紹介があった。

（２）一時帰宅支援プロジェクトに参加して　（榊勲　幹事）

榊幹事より、２回の一時帰宅支援プロジェクトの状況、及び参加経験に関する報告があった。一時帰宅支援プロジェクトに参加して得られた経験は大きく、今後も原子力・放射線部会として積極的にプロジェクトに協力すべきとの提案があった。

（３）福島事故解説チームの紹介　（後藤廣　副部会長）

後藤副部会長より、福島事故解説チームの主査への就任の挨拶があった。解説チームでは、今年中に原子力・放射線部会としての説明資料を作成する計画としていること、また、内容は一般市民への説明を視野に入れた資料とし、多くの場で部会員が説明の際に利用できるよう工夫をしたいとの説明があった。

（４）福島コールセンター支援に参加して　（嶋田昭一郎　幹事）

嶋田幹事より、福島コールセンター支援の状況、及び参加経験に関する報告があった。コールセンターでは、通常の質問はコールセンターの受付者が対応し、原子力に関する専門的知識が必要な質問に対してのみ対応している状況である（１日２件程度の対応）。

４．技術士（原子力・放射線部門）への期待　（岡本孝司　東京大学教授）

岡本先生より、技術士（原子力・放射線部門）への期待に関するコメントがあった。技術士は、原子力技術に関する専門性と高い倫理観を持っている者として国が認めた人材であり、今後、原子力の再興に活用すべき存在である。そのためには、日本における技術士の位置付けを明確にすることが大切であり、米国の設置許可の際の審査のように国が認めた P.E.に審査などをやらせる仕組みを確立することが大事となる。

また、技術士のような人材の必要性に関しては、「福島第一原

子力発電所事故に関する特別シンポジウム（一般社団法人 日本原子力学会「2011 年秋の大会」 「原子力安全」調査専門委員会)」や「原子力安全基準・指針専門部会　安全設計審査指針等検討小委員会　第１回会合」にて提言しており、今後も技術士の活躍に協力して行きたいとの強いお言葉を頂いた。

５．部会員からの声

・ 学会の活動が学術的見地からの提言が中心であるのに対して、技術士会は実務経験を生かした「体」を使った活動をすべき。

・ 一般市民の方々から見ると、有資格者の集まりである技術士会は、国、電力会社、メーカ等に比べれば比較的「中立的」と感じられ、我われの努力次第では「信頼できる存在」となり得る。技術士の殆どが組織に在籍しているが、このような立場を大切にし被災者により近いところで活動すべきであるとの声があった。

―以　上―